

# 文部科学大臣賞 団体の部 受賞校

## ノートルダム学院小学校 書写教育の取り組み

ノートルダム学院小学校  
国語部

### 1 はじめに

本校は、京都府京都市にあるカトリック校です。小学校・中学校・高等学校・大学の一貫校で、小学校は本年で69周年を迎えました。カトリック精神に基づき、「人がかわれば、世界が変わる」という創立者マザーテレジア・ゲルハルディングーの言葉を胸に、知性と品格をそなえた児童の育成を目指しています。「神を敬い、自分も人も大切にする子ども」「よく考え、自ら学ぶ子ども」「健康でいきいきした子ども」をめざす児童像とし、日々の教育活動に取り組んでいます。

### 2 書写教育の具体的な取組

#### (1) 授業の工夫

毛筆の学習は3年生からですが、1年生から硬筆指導は丁寧に行っています。ひらがな・カタカナから字形やとめ、はねなどお手本通り書くくせをつけられるよう、ご家庭にも協力をいただきながら指導しています。



3年生以上の毛筆学習では、始筆・終筆を意識できるように指導しています。穂先の向き、動き方を担任が指導し、子どもたちは課題に沿って筆運びの練習をします。何枚か練習し、その日の清書を一枚書きあげます。毎月、自分の作品が教室に掲示されるのも意欲につながり、自分の成長と課題を実感しながら継続的に学習をすすめています。

また、お手本を意識しながらも、太く元気のよい字や、その子らしさが表れている字についてもほめるようにしています。

#### (2) 行事

毎年、秋には「硬筆大会」、冬休み明けには「書き初め大会」を開催しています。どちらの大会も本校で大切にしている祈りの言葉や聖書の一説を書き写します。「書き初め大会」では、1、2年生はフェルトペン、3年生以上は毛筆を使用しています。

これらの大会では、より美しく丁寧に書き上げた作品を全てのクラスや学年のフロアに掲示し、全校児童、保護者の皆様に公開しています。また、学年賞、金賞、銀賞を設定し、児童はこれらの賞を目指して、いつも以上にやる気と集中を増して取り組めるようにしています。



### 3 おわりに

この度は、文部科学大臣賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に思っております。この受賞は、学校としての取り組みだけでなく、保護者の方のご協力があったからこそだと感じております。また、書画展という発表の場において、本校の子どもたちの日々の学習の成果を、表彰いただけましたことに感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、子どもたちと共に、書写教育の充実に取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。

# 文部科学大臣賞 団体の部 受賞校

## 高知市立愛宕中学校の取り組み

高知市立愛宕中学校  
森山翔太

### 1 はじめに

本校は高知県高知市の中心部に位置し、同市内でも規模の大きい学校として数えられています。近隣には、高知県の中心駅である高知駅があり、観光の出発地として栄えています。また、60年近い歴史を誇る愛宕商店街も近くにあり、夏にはよきこい祭りの鳴子の音が響き渡る、活気のある地域でもあります。本校では、「生徒1人1人が主人公」という教育指針のもと、自分がすべきことを自分で考え、自ら行動することで「自分を生かす」ことのできる生徒の育成を目標に、日々教育活動に励んでいます。

### 2 書写教育での取り組み

#### (1) 国語科での取り組み

授業では楷書や行書の特徴を意識しながら書くなど、基本的なことに重点をおいて指導しています。季節の便りとして、年賀状を作成していますが、その際にも毛筆で清書するように指導をしています。

毎年全国書画展覧会の課題を夏休みの宿題として位置づけ「全校生徒全員の作品を出品すること」を目標に取り組みを続けています。今年度は90%を超える出品率となりました。その他の各種書道コンクールへの参加も促しており、積極的に挑戦する生徒も多くいます。

#### (2) 学校内での取り組み

新年度になると各学級で学級目標を決め、掲示用に毛筆で書き表したり、文化祭の合唱コンクールで、各学級のスローガンを決め、毛筆で清書したものを会場に展示したりしています。また、各種コンクールで賞を受賞した作品を校内に展示することも行っています。そうすることで、他の生徒や職員、保護者の方も、目にする機会を設け、自己肯定感の向上を図っています。



### 3 おわりに

この度は、文部科学大臣賞をいただき、大変光栄に思います。全員に審査結果をいただけることを励みに、生徒たちは取り組んできました。今後も、生徒が書に親しみ、書く喜びを感じられるように取り組んでまいります。お世話いただきました関係者の方々に心よりお礼申し上げます。

# 文部科学大臣賞 団体の部 受賞校

## 本校における図画工作科の取り組み

福山市立加茂小学校  
上野愛実

### 1 はじめに

本校は広島県福山市の中心部から北へ約1.1kmに位置する、638名の学校である。山間の裾野に広がる加茂台地は、古くから古墳文化が栄えていた。校区や周辺には石鎚古墳や猪の子古墳など竪穴式や横穴式の古墳が数多く存在し、金冠や勾玉などの出土品も多く発見されている。

自分の思いや考えを発表・表現することのできる学級風土を構築し、学校教育目標である「自ら学びを創る児童の育成」を目指している。

### 2 図画工作科の取り組み（図画）

#### （1）教材選びについて

- ・学校行事や夏休みの思い出など、児童がその時感じたことや、情景を表現し、児童一人一人の心情を表現できるものを選んでいく。
- ・指導者は、この題材で何の力をつけるのか、これまでに学んでいる技法や、使ったことのある用具、技法を知った上で単元計画を立てる。

#### （2）構図について

- ・児童が一番表したいと思うものから描き始めるようにする。
- ・立体感を出すために周りにいる友達や、景色を描くよう声をかけていく。
- ・人物画は、実際に自分がどんな動きをしているか、体のつくりをしているかをタブレットで撮影し、肩・首・肘・膝など曲げたり動かししたりした時の角度を意識して表現できるようにしている。
- ・高学年の風景画では、奥行きについて学んだ上で学校の中の自分のお気に入りの場所を選び、児童が「自分の思いを表現したい。」と思うような構図にこだわって選んでいる。
- ・A3の用紙などにおおまかな構図を鉛筆で描いて、どんな作品になるかイメージをもたせてから画用紙に描き始めるようにしている。

#### （3）色づくり

- ・低学年の間に筆洗やパレットの使い方、机の上に置くものなどのきまりをしっかりと指導する。
- ・赤・青・黄の3原色を使って様々な色を作り、混色した絵の具は自然の色に近づくことや、少しずつ絵の具や水の割合を変えることで思い描いている色を表現できることを実感できるようにしている。
- ・水彩画の場合は、画用紙に描いた後に水の量をティッシュでおさえて調整したり、空や海などは水だけを筆につけて絵の具で塗られた上をなぞったりするなど、水の量によって絵のもつ雰囲気が変わることを学べるようにしている。

#### （4）鑑賞

- ・作品が完成して鑑賞するだけでなく、仕上がる前に、一度鑑賞しあっている。友達の作品の良さを見つけることで自分の作品に活かしたり、互いの良さを伝えたりすることで意欲にも繋げている。

### 3 おわりに

この度は、伝統のある展覧会で文部科学大臣賞をいただき、大変嬉しく思います。描くことや製作することを通して、表現の楽しさを実感することができるような授業づくり、指導に励んでいきます。

# 文部科学大臣賞 団体の部 受賞校

## 本校における美術科の取り組み

川口市立里中学校

鈴木 久美子

### 1 はじめに

本校のある川口市は、東京都に隣接する中核都市であり、利便性の高さから近年住みやすい町として知られるようになった。一方で造園業等も盛んであり、緑多いのどかな地域も有している。本校は規模の小さな鳩ヶ谷市の学校として創立されたが、12年前の川口市との合併により、川口市立の学校になった。川口市として発展しながら、宿場町であった鳩ヶ谷の情緒を残す、市の中央部に位置している。

### 2 本校の取り組み

本校は、目指す学校像として「生徒一人一人を大切に、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成し、絆を深める里中学校」を掲げている。美術科では、生徒一人一人の興味・関心や特性を大切に、よさを伸ばして、美術や美術文化に感性豊かに関わる生徒の育成を目指している。

#### (1) 1学年における基礎・基本の指導の工夫

1学年の学習においては、まず最初に、図工美術への苦手感を払拭させてからスタートできるように、インパクトのある楽しい題材を用意している。

また、3年間の指導を見据えて基礎・基本の指導を重視しているが、いくつかの短期題材を行った後は、基礎の学習を複合的に盛り込んだ長期題材を設定し、作品を完成させる喜びを味わえるようにしている。

#### (2) 場の設定についての工夫

生徒が、表現方法や素材、用具等を自己選択する機会を増やせるような環境づくりを題材ごとに工夫している。個々の生徒が培ってきた個性、感性、得意なことを生かし、伸ばしていくために、自分で選び、決定することは重要だと思う。それが可能になる、場の設定の工夫は教師のなすべき役割だと考えている。

#### (3) 参考作品や他の生徒の作品の提示や展示

生徒の制作意欲の喚起、発想のきっかけづくりのため、また、感性を磨くため、参考作品の写真データ等の活用を力を入れている。作品（実物）の鑑賞が最も効果的であると思うが、見ることで作品数が少ない場合、一定の作品の影響が大きくなりすぎることがある。そのため、できるだけ傾向の異なる、多くの作品例を、画材や素材、表現方法の解説とともに、提示するようにしている。

### 3 おわりに

本校の美術科は、今年度4月から私が担当しているが、昨年度までの7年間は前任者が担当していた。前任者とは、以前同僚として過ごした期間もあり、取り組みの基本的な考えはかなりの部分で一致していると感じているので、この文章は私が書かせていただいた。全国書画展への毎年の応募は、前任者の意向と指導で行ってきたもので、前任者の功績にも感謝している。今回の受賞は大変光栄に感じている。生徒とともに喜び、今後の活動への励みとしていきたい。

